

NPPOと湯田川温泉(鶴岡)有志

清河八郎は妻お蓮と同温泉の理太夫旅館で出会ったとされる。藤沢周平の小説「回天の門」に、その場面が描かれている。

八郎の献策で幕府が編成した浪士組は八郎が暗殺された後、新選組と新徴組となった。庄内藩に預けられた新徴組は戊辰(ぼしん)戦争が始まった1868(慶応4)年から約2年間、湯田川に居住。隼人旅館に本部が置かれた。

さらに八郎は1855(安政2)年、母を連れて全国を旅したが、その際も湯田川温泉で休んだことを旅日記「西遊草」に書き残している。

「まちネット」は八郎が学者を志して家出し、江戸に向かった県内ルートを「回天の道」と名付けて踏査したほか、「西遊草」の県内ルートも歩いた。同温泉の関係者と歴史を生かして活性化を図ろうと話し合い、「学び語る会」を立ち

清河八郎 学び語ろう

組織結成、来月シンポ

上げた。

ゆかりの道散策も

イベント当日は午前10時から「西遊草」の記述に沿って湯田川温泉から大日坂を通過して田川までの約2キロを歩く。シンポジウムは午後1時から湯田川コミュニティセンター。山本陽史山形大基盤教育院教授が「清河八郎、幕末日本をゆく」と題して講演する。

参加費は資料代など千円(湯田川の住民は500円)。問い合わせ、申し込みは隼人旅館0235(35)3355。

「西遊草」の道を確認するため湯田川温泉近くの「大日堂跡」を踏査する「元気・まちネット」のメンバー

昨年8月、鶴岡市湯田川

